

No 30

31 Jan. 2011

日本・パプアニューギニア協会会報

ごらくちよう

Bird of Paradise

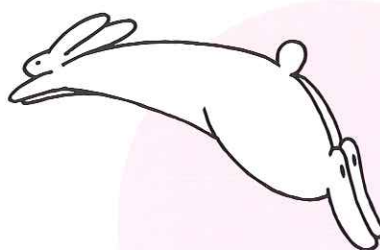
発行 NPO法人 日本・パプアニューギニア協会

発行日 平成23年1月31日

編集 NPO法人 日本・パプアニューギニア協会広報部 〒102-0074 東京都千代田区九段南1-6-17 千代田会館6F(ニューギニア航空日本支社内) TEL 03-5216-3555 FAX 03-5216-3556

新年のご挨拶

副会長 高松 裕満



凜とした冷気の中で迎える新年、日本の風土が育んだ多様な行事は神と縁のない人にも自然に対する畏敬の念を持たせ、少しばかり清い心になったような気持ちにさせてくれます。しかし、会社が始まり満員電車の中で携帯電話などの電子機器に囲まれた電子レンジ状態になると、優しい顔をしようとしても、おそらくきつい顔つきになり、性格も悪くなっていくような気がしてなりません。翻ってパプアニューギニアや他の南太平洋の島嶼国はどうなのだろうと考えると、国連が表示する米ドルでの数値で発展途上国だとか先進国だとかに区分することにどれほどの意味があるのか、全ての国を日本や欧米のようにすることが目標なのか、難しい課題に突き当たってしまいます。

ブータンであったでしょうか、GNH (Gross National Happiness)ということを謳っていますが、居心地の良い地域、地球とはどのようなものかということを経験する時期からもっと真剣に考えさせる場が必要です。またそれについて、マスメディアの責任も決して小さくはありません。GNHを少しでも高める過程には、ナショナルリ

ズムあり、宗教あり、人種民族あり、また人間本来の欲望も立ちはだかっています。それを多少なりとも折り合いをつけていく其の方向性こそが、わが国の憲法の前文にある“国際社会において名誉ある地位を占めたいと思う”という理念にも合致する筈です。

昨今、PNGでは資源開発が急速に進んでいますが、国が豊かになるということは平面的に地方も豊かになるということなので、格差が広がらないことを切望しています。

競争社会から協調社会へ、私ども日本・パプアニューギニア協会はそんな思いも持ってNPO法人とし限られた厳しい財政状況の中で、極く僅かなPNGの学生に奨学金を支出しています。今年はもう少し人数を増やしたい、そして色々な面に対極的な立場にある日本とPNGの若人が次世代に共通のGNHを多少でも高めてくれればと正月の冷気の中で思った次第です。

最後になりましたが、当協会への一層のご支援をお願い申し上げますとともに、新しい年が皆様にとりまして、ご健勝で明るい年でありますよう祈念申し上げます。

よこはま動物園「ズーラシア」×写真家「スギ☆カナ」のイベント

「キノボリカンガルーの森をのぞいてみよう！」

10月23日から11月1日まで開催しました。

当協会会員 スギ☆カナ & 木本 徹

キノボリカンガルーの森を紹介する写真展を開催

パプアニューギニアの熱帯林の中でとらえたキノボリカンガルーの写真を中心に、ランの花、蝶、ごくらく鳥などの写真を展示し、森の多様性を紹介しました。

また、パプアニューギニアの人々の日常風景から精霊を祀る儀式の様子、祖霊像など、文化面も紹介。約50点の写真を展示しました。

10月24日(日曜日) 伝統楽器とトーク・イベントを開催

1部「キノボリカンガルーのふるさと、パプアニューギニアの伝統楽器に触れてみよう！」では、事前申し込みを頂いた、児童を中心にした定員の20名が、打楽器のクンドゥとガラムト、そして竹笛、竹フルートの演奏を体験。即興で簡単な合奏も楽しみました。

また、鳥の羽や毛皮、牙、寶貝、ヤシの葉などで装飾した民族衣装を身につけて記念撮影。音楽に国境はない！を実感。大いに盛り上がりました。



2部は、トークショーで、「写真家スギ☆カナと飼育員が語るキノボリカンガルー」と題して開催。満席に近い100人以上のお客様を前に、パプアニューギニアとキノボリカンガルーの事、動物園での飼育の状況、繁殖の難しさ、野生下における絶滅危惧の現状と原因、これからどう取り組んでいくか・・・など柔らかい話から堅い話まで、ジョークを交え会場との掛け合いを楽しみつつ1時間お話ししました。

イベントでは、PNG観光局発行のリーフレットとスギ☆カナのキノボリカンガルーポストカードを参加者にお配りしました。また、観光局のリーフレットは、写真展会場に常備し、開催期間中、ご来場者に自由にお持ち帰り頂きました。また、期間中はアンケートボックスを設置し、パプアニューギニアとキノボリカンガルーへの関心の高さを知る機会となりました。開催にあたっては、資料・楽器提供、取材、PRの全ての面で、日本・パプアニューギニア協会様、特に、ニューギニア航空様、ポリトライブオセアニア文化に親しむ会様、PNGジャパン様のご協力をたまわり、心より御礼申し上げます。



*スギ☆カナとキノボリカンガルー

関連サイトのご紹介 キノボリカンガルー情報ページ

「キノボリカンガルー大好き!」 <http://www.tree-kangaroo.com>

*スギ☆カナのキノボリカンガルー写真集

「Tree Kangaroo ~パプアの森のお友だち~」

ご注文は、PNGジャパンホームページへ

<http://www.png-japan.co.jp/shop/>

宿願の遺骨収集

当協会会員 中野 清香

今回(2010年11月10日～25日)の遺骨収集では、長年の宿願であったカニアピット方面(ラエ西部)を訪れることができ、誠に貴重な体験をした。

ラエからマダンに通じるハイウェイを約2時間でカニアピットに着く。民家の軒先から2年前に発見された、鉄帽を被ったままの頭骨が掘り出された。鉄帽から骨を取り出すと、頭部を貫通した弾が鉄帽の後頭部に食い込んでいた。正に壮絶な戦死であり、慄然とする。正しく此処が戦場の跡であろう。此処は、ナザブ平原に空輸された豪州第7師団と、中井支隊が遭遇戦を交えた処である。戦記によると、カニアピットに敵が進入したことの報せで、歩兵第78連隊第3大隊が、急行軍でカニアピットに到着したのが、18年9月20日の未明であった。折からの濃霧の中で攻撃準備中に霧が晴れて、待ち構えていた敵陣地の前に暴露されてしまった。たちまち豪軍との猛烈な撃ち合いとなり、大隊長をはじめ中隊長ほか多数の戦死傷者を出した。この戦闘で我が工兵隊も歩兵と共に敵陣に突入し、私の親友が部下9名と共に戦死している。

発掘場所に蠟燭を灯し、線香を手向けて、亡き戦友の霊を弔う。



文中の鉄帽



数々のご遺骨

次に訪れた部落では、バイバから来た3人の男が我々を待っていた。3柱の骨と銃剣や鉄帽等の遺留品を提示し、自分たちの村の周辺には千体余りの骨がある。この骨はそのサンプルだと言う。バイバは戦時中に我々が歓喜嶺に行く途中に通過した部落である。隣のサイパには、第20師団の診療所があり、広い丸太の床に患者が溢れる様な状態であった。彼等の祖父たちの話では、サイパでは沢山の死体を焼いたのだと言う。数はともかくとして、沢山の骨があるのは間違いない。私がサイパ付近にいたことを知ると、親しそうな笑顔を向けた。そして、来年は自分たちの村に来てほしいと何度も言っていた。折りしも降り出した雨で、慌てて車に戻ったが、彼らも雨の中を歩いて帰って行った。歓喜嶺の裾野を回って帰るのであろうが、相当の距離である。私も一度、彼等の村の周辺に行ってみたいものだと思う。

その夜、私の前に戦友たちが現れた。詳しくは述べないが、30名ほどの兵士であった。前列の7名ほどは姿や表情も鮮明で、嬉しそうに笑った。再び眼を閉じると、1ヶ分隊ほどの兵が崖の下の道を歩いて行くところであった。決して単なる夢ではなかった。世の中には人智も及ばぬところがあると言う。英霊の加護を信じるに足る、貴重な体験であった。

日本・パプアニューギニア協会
法人会員紹介 第23回

「みなさん、こんにちは」

株式会社 郡産業です。

〒134-0083 東京都江戸川区
中葛西7-8-5

TEL03-3688-4453

FAX03-3688-4446

株式会社郡産業は、平成22年3月より、パプアニューギニアにおいてマーカム橋の補強工事を担当しており、平成22年12月現在、出向社員11名が土木作業、現地作業員の技術向上指導に励んでいます。

弊社は昭和57年創業以来、基礎・土木工事部門を中心に、現場でのトラ

ブルにいち早く対応するためワイヤーロック・油圧ホース加工部門を展開し、24時間体制で現場トラブル早期解決をお手伝いさせていただいています。

さて、一般の方には基礎というと、一般住宅の四角い基礎が思い浮かべられると思いますが、弊社が施工している基礎は、地中何十メートルも大型機械で掘削し、円筒型の鉄筋籠を建て込み、コンクリートを流し込んで構築していく場所打ち杭というものです。この基礎は、大規模集合ビル、鉄道、道路、河川橋梁等の最下部に位置するものです。したがって、あらゆる工事の最初に行う本工事となる訳です。本体工事工期を左右する大事な本工事といえるでしょう。北

海道の北の果てでは現在深地層研究計画地下施設の工事を行っています。この工事は地下550mまで垂直に掘削するものです。現在4年かかり、250mまで掘削しています。

このように、多種多様な工事を日本全国各地、海外でも行っています。独自機械の開発では、従来では施工できなかった場所(上空に障害物がある場所、非常に狭隘な場所)でも施工可能な軽量、高性能な特殊機械を開発稼働させています。マーカム橋においても旧橋下でこの機械が大活躍しました。平成24年3月のマーカム橋竣工まで、たゆまぬ努力を続けてまいりたいと思いますので、今後ともよろしくお願いいたします。



事務局からのお知らせ

*「ギャラリー明日荷」オープン！
当協会会員植田早苗様が「ギャラリー明日荷」(埼玉県鶴ヶ島市)をオープンされました。
陶磁器、刺繍、パッチワークなどに加え、PNGコーヒー、写真集も展示されています。
詳しくはこちらまで。
TEL 049-286-2632

*心よりお悔やみ申し上げます。
(財)オイスカ職員澤井勝之様が新境地フィジーで海中事故のため急逝されました。
澤井様は、昨年12月まで、オイスカバウルエコテック研修センター所長を務められており、PNGに多大なる貢献をもたらしてくださいました。
ここに故人のご偉業を讃えますとともに、謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

編集後記

高松副会長のおっしゃる「国民総幸福」、いいですね。オノ・ヨーコさんがおっしゃっていましたが、どんな些細なことでもいい。一日、3つ、いいことをする。すると、だんだん自分が幸せになってくるのだそうです。近所の方々にニコニコと笑って挨拶する、電車で席を譲る、等々。私も肝に命じて挑戦してみます。(佐藤直子)

日本・パプアニューギニア協会 会員募集

本協会では随時会員を募集しております。お知り合いの方にぜひお声をかけて下さい。
会員数 2010年12月末 *法人会員/23 *個人会員/149

本協会は、日本とパプアニューギニアが友好関係を促進し相互理解を深めることを目的とし、文化、学術、芸術、スポーツ、観光等様々な活動を行っております。どうぞ本協会の活動をご理解下さり、ご協力の程をお願い申し上げます。

申し込み方法 / 郵便局の振込取扱票にてお申し込みください。
年会費 / 個人会員 5,000円 法人会員 50,000円 学生 1,000円 PNG人 1000円

会費受付 / 郵便振替口座をご利用ください。

口座記号 / 番号 00140-2-277582

加入者名 / 日本・パプアニューギニア協会

問い合わせ先 / 日本・パプアニューギニア協会 事務局

〒102-0074 東京都千代田区九段下1-6-17 千代田会館6階(ニューギニア航空日本支社内)
電話: 03-5216-3555 FAX: 03-5216-3556 E-mail: info@air-niugini.co.jp